内部DBを使おう【続編1:SELECT】

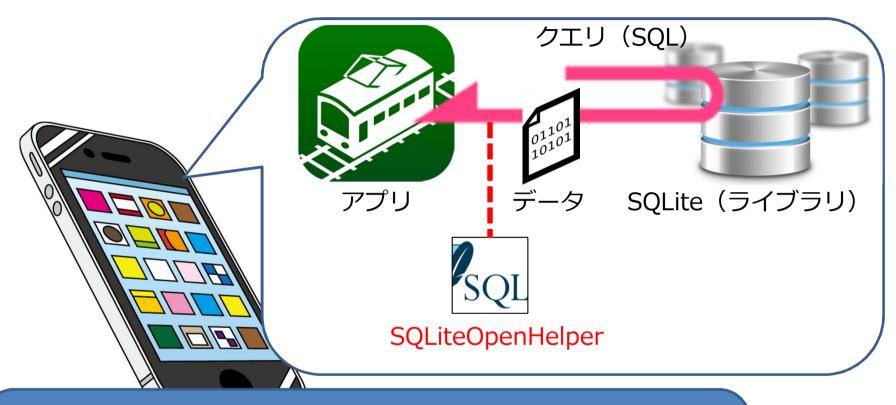




v.1.0.0

by masatokg

アプリからSQLiteにアクセス



引き続き、実際に「SQLiteOpenHelper」を使ったSQLiteア クセスを実装していきます。

今回は、いよいよリスト一覧のSELECTとリストを選択してからのDELETEを実装します。まず今回は、表示/再表示でのSELECT読み込みを作っていきましょう。





アプリからDB内の表を操作する



アプリの操作に応じて、 SQLiteOpenHelperを 通じてSQLを実行



SQL

SQLiteOpenHelper

SELECT、INSERT、DELETE、 新たなCreateTableなど…

これまで見てきたように、アプリ内のボタンクリック等のいろんな操作に応じて、SELECTやINSERT、DELETEなどの処理をSQLを、SQLiteOpenHelperを通じて実行し、表を操作していきます。



一言を登録、表示は完成

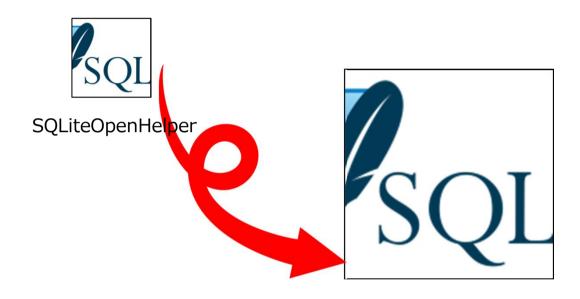


登録された一言をリスト表示、選択削除



今度は、画面遷移後、登録済みの一言を一覧表示、そのうちの一つを選択して削除ボタンを押下するとデータベースのHitokotoテーブルから該当データを削除する、という処理を実装します。

MySQLiteOpenHelperを利用する

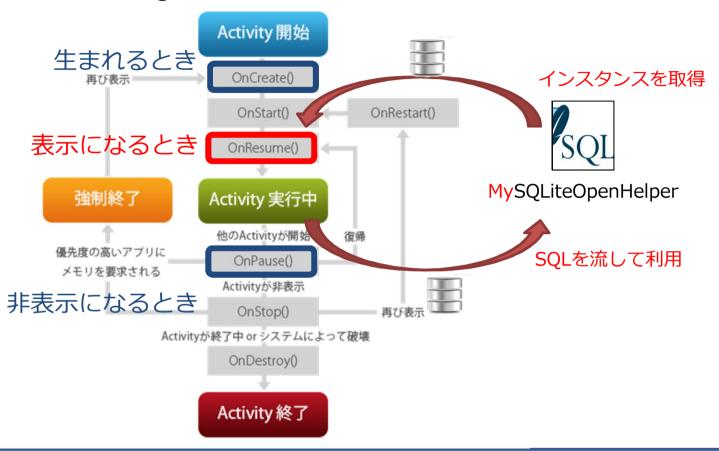


MySQLiteOpenHelper

今回も、「SQLiteOpenHelper」の機能を受け継いだ継承ク ラス「My SQLiteOpenHelper」のインスタンスを、各画面 (Activity) の中で利用していきます。まずは、表示/再表示 時のSELECTを実装していきます。

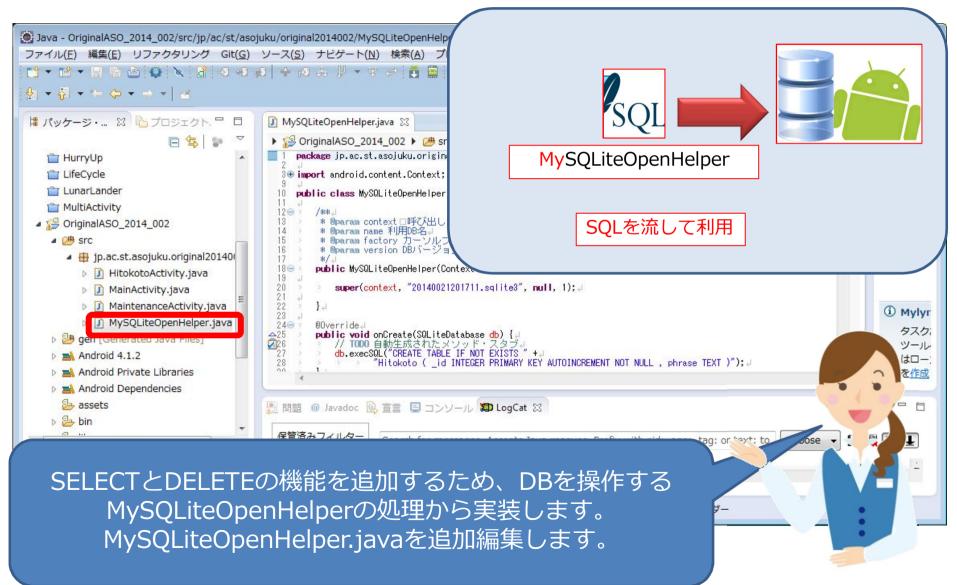


SQLiteDatabaseインスタンスを取得



おさらいですが、画面(Activity)からSQLiteデータベースを操作するには、まずOnResumeライフサイクルイベントにて、作成したMySQLOpenHelperを利用してSQLiteDatabaseインスタンスを取得します。ActivityのソースコードにOnResumeイベントハンドラをまだ実装していない場合は、ソースメニューから選択して追加します。

MySQLiteOpenHelperの処理



必要な部品クラスをimport

```
▶ 🕵 OriginalASO_2014_002 ▶ 👛 src ▶ 🖶 jp.ac.st.asojuku.origina
                    package jp.ac.st.asojuku.origina12014002; 4
                  3 import android content Context:
                    import android.database.S0lException:⊿
                    import android.database.sqlite.SQLiteCursor:↓
                    import android.database.sqlite.SQLiteDatabase: ⊿
                    import android.database.sqlite.SQLiteOpenHelper; ↓
                    import android.util.Log; ↓
                    /** ____
                        * Oparam context ロ呼び出しコンテクスト』
                      * @param name 利用DB名↓
                      * Operam factory カーソルファクトリー』
* Operam version DBバージョン』
                        8/1
                       public MySQLiteOpenHelper(Context context) {

                 19
                          super(context, "20140021201711.sqlite3", null, 1); 4
前回と同様、DB操作に必要な部品クラスをimportしていない
                  場合は、importします。
```

テーブル作成処理を確認

```
public MySQLiteOpenHelper(Context context) { 
               super(context, "20140021201711.sqlite3", null, 1); ↓
 21
22
 23
 24⊖
           ®Override⊿
           public void onCreate(SQLiteDatabase db) {』
> // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ』
> db.execSQL("CREATE TABLE IF NOT EXISTS" +』
\triangle 25
 28
                         "Hitokoto ( id INTEGER PRIMARY KEY AUTOINCREMENT NOT NULL , phrase TEXT )");
           } 4
 30
           ®Override⊿
           public void onUpgrade(SQLiteDatabase db, int oldVersion, int newVersion) {↓
≏32
33
                 db.execSQL("drop table Hitokoto:"): 4
                 onCreate(db);⊿
 34
```

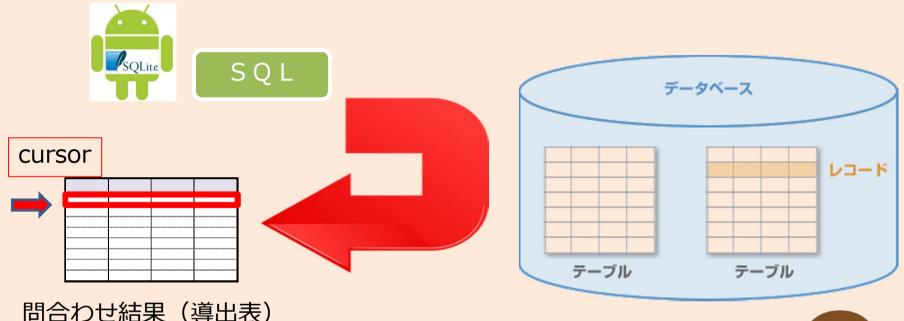
前回、Create Table文のSQLをOnCreate時に実行する処理を 実装しているはずです。今回はこのテーブルにDELETEや、 SELECTを実行するため、実装済みであることを確認します。

SELECT処理用のメソッドを作成

```
* Hitokotoテーブルからデータをすべて取得↓
* Oparam SQLiteDatabase SELECTアクセスするDBのインスタンス変数↓
* Oreturn 取得したデータの塊の表(導出表)のレコードをポイントするカーソル↓
public SQLiteCursor selectHitokotoList(SQLiteDatabase db){
    SQLiteCursor cursor = null; ↓
    String sqlstr = " SELECT id, phrase FROM Hitokoto ORDER BY id; "; 4
    try 📳
        //トランザクション開始↓
cursor = (SQLiteCursor)<mark>db</mark>.rawQuery(sqlstr, null);↓
         if(cursor.getCount()!=0){↓
             //カーソル開始位置を先頭にする』
cursor.moveToFirst();』
        // cursorは呼び出し元へ返すからここではcloseしない』
        // cursor.close():4
    } catch (SQLException e) {↓
    → Log. e("ERROR", e.toString()): □
    }finally {⊿
    return cursor: 4
```

同様に、引数で渡されたDBに、SELECT文を実行して結果を受け取るメソッドを書きます。SELECTのように結果データを受け取るSQLは、SQLiteDatabase#rawQuery()メソッドで実行します。結果は、いったんcursorという形で受け取ってから、中身を取り出します。このCursorを、今回は呼び出し元に戻り値としてリターンします。書き込み場所は、selectRandomHitokotoメソッドの次あたりがよいでしょう。

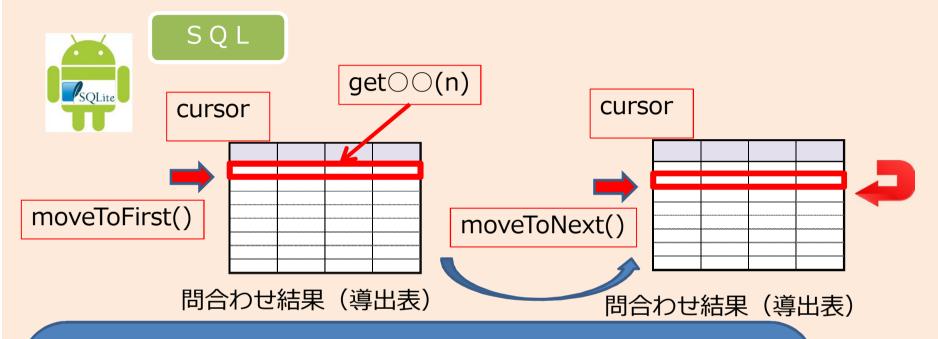
カーソル (Cursor) とは



カーソルとは、RDBからのSELECT結果の データの塊(導出表)上のデータを指し示す ポインタにあたるオブジェクト変数です。



カーソルは導出表のレコードを指し示す



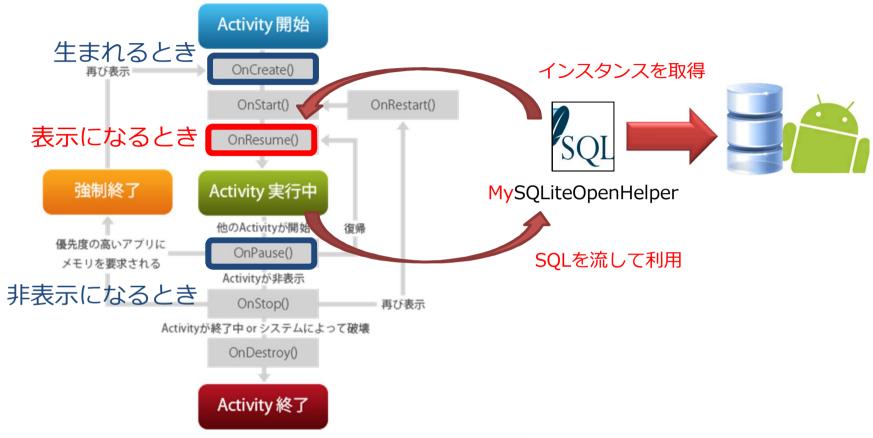
カーソルとは、通常、導出表の中の1レコード分のデータを指し示し、前回のSELECT文で実施したように、get〇〇(n)の形で操作してそのレコード内のカラムを指定、値を取り出します。最初にCursor#moveToFirst()を実行して先頭レコードを指し示します。先頭レコードからデータを取り出したら、Cursor#moveToNext()を実行して、カーソルが次のレコードデータを指し示すようにします。これを導出表のレコード数分ループしながら、繰り返し実行することで、全てのデータが取り出せます。

DELETE処理用のメソッドを作成

```
117⊖
         * Hitokoto表から引数 (id) で指定した値とカラム「_id」の値が等しいレコードを削除
* Operam SQLiteDatabase DELETEアクセスするDBのインスタンス変数↓
118
119
         * Operam id カラム「 id」と比較するために指定する削除条件の値』
120
         */ 』
        public void deleteHitokoto(SQLiteDatabase db, int id){ |
            String sqlstr = " DELETE FROM Hitokoto where _ id = " + id + " ;"; \( \)
            try | ⊿
                //トランザクション開始』
                db.beginTransaction(); ↓
                db.execSQL(sqlstr); +
        > //トランザクション成功↓
                db.setTransactionSuccessful(); ↓
           _} catch (SQLException e) {↓
                Log. e("ERROR", e.toString()); 4
            }finally {↓
                //トランザクション終了↓
134
135
                db.endTransaction(): ↓
136
137
```

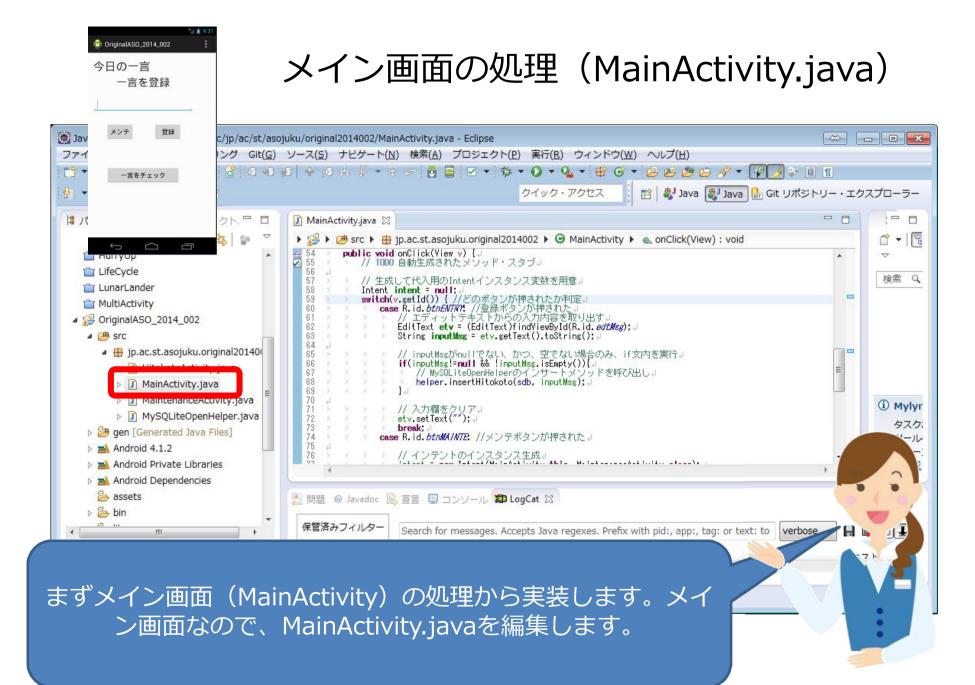
次に、DBへDELETE文を実行するメソッドを書きます。引数には、実行 先のSQLiteDBを操作するためのインスタンス変数と、削除条件の 「_id」カラムの値を渡すことにします。SQL文を組立て、 SQLiteDatabase#execSQL()メソッドで実行します。万一のエラーのた めに、トランザクション処理と、try&catchでエラー処理を実施するよ うにしましょう。書き込み場所は、 先ほどのselectHitokotoListメソッ ドの次あたりがよいでしょう。

SQLiteHelperDatabaseを呼び出して使う



こうして前回同様、MySQLiteHelperに書き込んだDELETE、SELECT用のメソッドを、各画面のActivityから呼び出すことで、DBを操作していきます。次に、画面(Activity)側の呼び出し処理を書いていきます。





必要な部品クラスをimport

DB操作に必要な部品クラスをimportしていない場合は、importします。

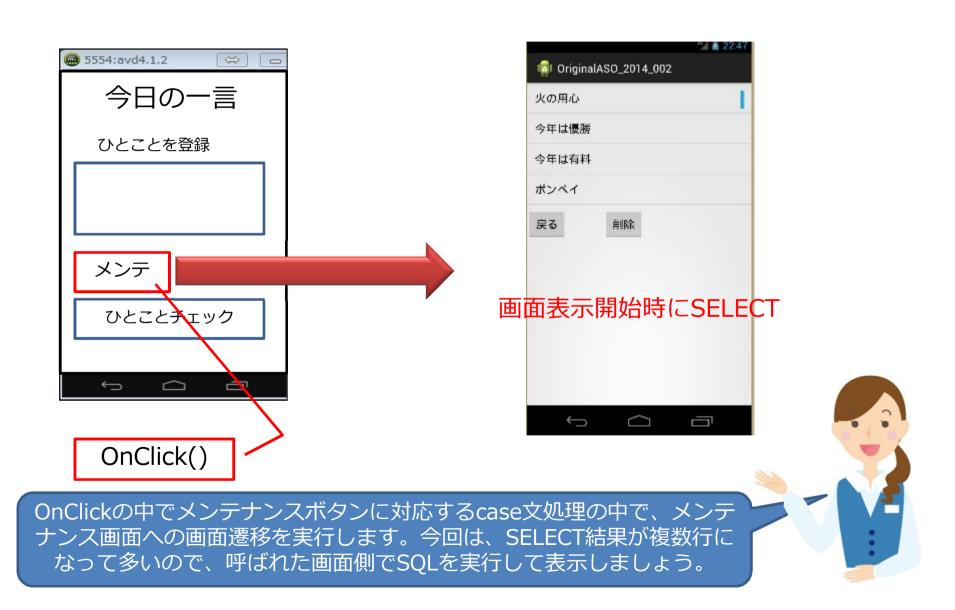
DB操作に必要なクラスをインスタンス変数として用意

DB操作に必要な以下のクラスをインスタンス変数として操作するために、クラスフィールド変数(どのメソッドの枠からも超えた、クラス全体で使える変数)として宣言します。

画面(Activity)にてMySQLiteOpenHelperのインスタンスを生成、オープンしたSQLiteDabaseを取り出す

前回、OnResumeイベントハンドラの中に、 MySQLiteOpenHelperのインスタンスを取得する処理♥ を追加していることを確認します。

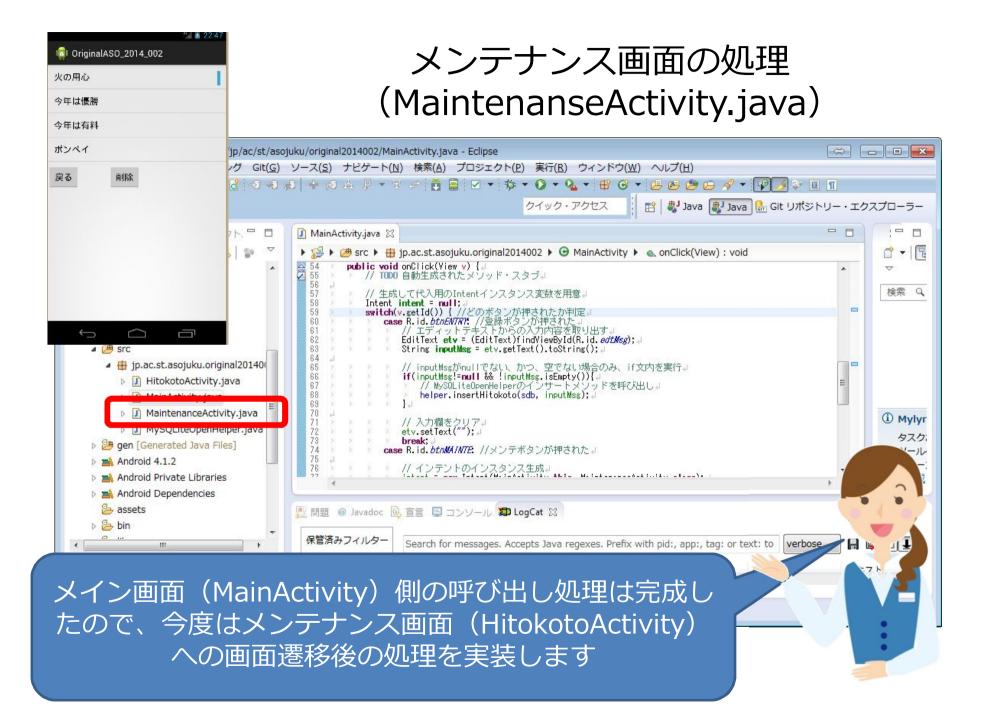
OnClickイベントハンドラ内に画面遷移処理を書き込む



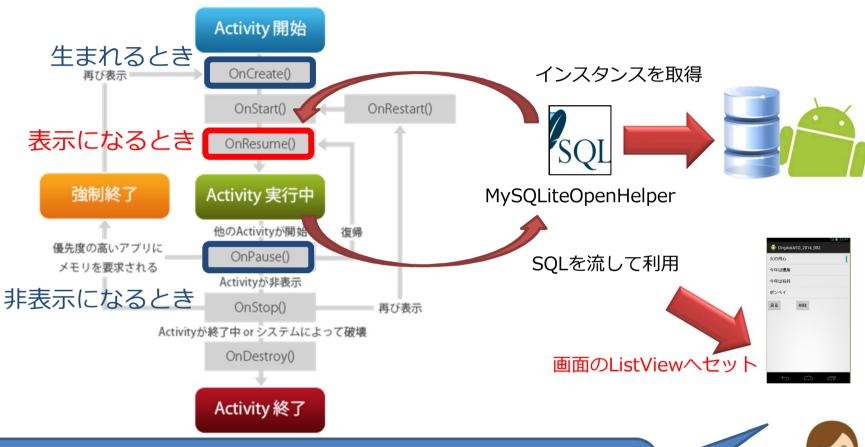
メンテボタン処理の部分にて、メンテナンス画面へ画面遷移

```
17
             // 生成して代入用のIntentインスタンス変数を用意』
             Intent intent = null;
             switch(v.getId()) { //どのボタンが押されたか判定』
> case R.id. btnENTRY: //登録ボタンが押された』
                       // エディットテキストからの入力内容を取り出す↓
EditText etv = (EditText)findViewById(R.id.edtMsg);↓
                       String inputMsg = etv.getText().toString(); 4
                       // inputMsgがnullでない、かつ、空でない場合のみ、if文内を実行すif(inputMsg!=null && !inputMsg.isEmpty()){』
                           // MySQLiteOpenHelperのインサートメソッドを呼び出し』
helper.insertHitokoto(sdb, inputMsg);し
                       // 入力欄をクリアa
                       et v. set Text (""): 4
                       break: 🗸
                  case R.id. btnMAINTE. //メンテボタンが押された』
                      // インテントのインスタンス生成↓
intent_=_new Intent(MainActivity.this, MaintenanceActivity.class);↓
                       // 次画面のアクティビティ起動↓
startActivity(intent);↓
                       break: 🛭
11
```

onClickイベント反応処理のメンテボタン部分にて、(仮にVIEW 部品IDをbtnMAINTEとしたとします)メンテナンス画面 (MiantenanceActivity)への画面遷移処理を書き込みます



画面表示のタイミングでSELECTを実行



まず、メンテナンス画面表示のタイミングで、SELECT 処理を呼び出し、ListViewに表示します。



必要な部品クラスをimport

```
    MaintenanceActivity.java 
    □ MainActivity.java

                                               MySQLiteOpenHelper.java
▶ @ OriginalASO_2014_002 ▶ @ src ▶ # jp.ac.st.asojuku.original2014002 ▶ @ N
     package ip.ac.st.asojuku.original2014002;
      import android.app.activity;
      import android.database.sqlite.SQLiteCursor:
      import android.database.sqlite.SQLiteDatabase;
      import android.database.sqlite.SQLiteException:
      import android.os.bundie;
      import android.util.Log: 4
      import android.widget.AdapterView; 
      import android.widget.Button:
      import android.widget.ListView; ↓
      import android.widget.Toast;
                         ※ミニメッセージ(トースト)表示に必要なクラス
      * Nauthor masatoke
     public class MaintenanceActivity extends Activity implements View.OnClickList
  21
         On the Database and - multi-
      い場合は、importします。
```

DB操作に必要な部品クラスをimportしていな

メンテナンス画面のソースコード (MaintenanseActivity.java)

```
10 10
16⊜ /**⊿
    * @author masatokg 4
    */ 4
19.
   | public class MaintenanceActivity extends Activity implements View.OnClickListener, Adapter
22
       // SQLiteデータベース空間を操作するインスタンス変数を宣言↓
23
       SQLiteDatabase sdb = null; 4
       // MySQLiteOpenHelperを操作するインスタンス変数を宣言↓
24
       MySQLiteOpenHelper helper = null:⊿
26
27
       // リストにて選択したHitokotoテーブルのレコードの「 id」カラム値を保持する変数の宣言』
       int selectedID = -1;↓
       // リストにて選択した行番号を保持する変数の宣言↓
30
       int lastPosition = -1; ↓
       ®Override⊿
       protected void onCreate(Bundle savedInstanceState) {↓ → // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ↓
```

メンテナンス画面(MaintenanseActivity)全体で使用する変数 (クラスフィールド変数)を宣言して用意します。



selectedID & lastPosition



先ほど宣言した変数のうち、「selectedID」はListviewの選択行にセットされたHitokoto表のレコードデータのうち「_id」カラムの値を、「lastPosition」はListviewでの選択した行番号を、それぞれセットしておく変数です。

Listviewでは、 setOnItemClickListenerが反応する

```
import android.View.View.
    import android.widget.AdapterView;
    import android.widget.ListView; ⊿
    import android.widget.SimpleCursorAdapter:↓
    import android.widget.Toast: ⊿
16 ⊜ /**∠
     * Mauthor masatoks 4
     继国。
    public class Maintenar<del>ceActivity extends Activity implement</del>

> View.OnClickListerer, AdapterView.OnItemClickListener{↓
        // SQLiteデータベース空間を操作するインスタンス変数を宣言』
        SQLiteDatabase sdb = null: ↓
        // MySQLiteOpenHelperを操作するインスタンス変数を宣言↓
        MySQLiteOpenHelper helper = null; ↓
        // リストにて選択したHitokotoテーブルのレコードの「_id」カラム値 int selectedID = -1;↓
        // リストにて選択した行番号を保持する変数の宣言↓
int lastPosition = -1;↓
33 \oplus 1 \ge 1
        ®Overnide⊿
```

ところで、Listvewをクリックした時のイベントには、 onClickListnerではなく、onItemClickListnerが反応します。新▼ たに、AdapterViewをimportして、OnItemClickListnerを implementsします

メンテナンス画面のソースコード (MaintenanseActivity.java)

```
protected void onCreate(Bundle savedInstanceState) {↓
> // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ↓
> super.onCreate(savedInstanceState);↓
             setContentView(R.layout.maintenance activity); 4
37
39⊖
         00verride⊿
40
         protected void onResume() {

             // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ↓
41
42
             super.onResume():[...]
43
            // 各view部品を操作するidを取得↓
Button btnDelete = (Button)findViewById(R.id.btnDELETE);↓
44
45
            Button btnMainte Back = (Button)findViewById(R.id.btnMAINTE_BACK); 
ListView IstHitokoto = (ListView)findViewById(R.id.LvHITOKOTO);
47
48
49
             // 各ButtonにOnClickListenerをセット↓
             btnDelete.setOnClickListener(this); ⊿
50
51
             52
53
             // ListViewlこOnItemClickListenerをセット↓
             IstHitokoto.setOnItemClickListener(this); 4
54
55
             // ListViewにDBの値をセット』
             this.setDBValuetoList(IstHitokoto);
58
```

画面表示時に行う処理は、これまでのように、onResume()メソッド内に書き込みます。「戻る」「削除」ボタン、一覧表示のListviewの操作用変数をidを基に取得して、それぞれイベントリスナーをセットします。また、エラーにならないように、空のonClickメソッド、onItemClickメソッドをメニューのソース→メソッドのオーバーライド/実装で作成しておきます。

DBのSELECT処理実行を呼び出す

```
32 🖃 ≥
        ®Uverride⊿
        protected void onCreate(Bundle savedInstanceState) { 
        > // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ↓
> super.onCreate(savedInstanceState);↓
> setContentView(R.layout.maintenance_activity);↓
        37
38
   - 4
39⊖ >
        ®Override⊿
        protected void onResume() {

            // TODO 自動生成されたメソッド・スタブ』
super.onResume();□
43
   4
   ト > // 各view部品を操作するidを取得↓
44
       > Button btnDelete = (Button)findYiewById(R.id.btnDELETE); ↓
            Button btnMainte_Back = (Button)findViewById(R.id.btnMA/NTE_BACK); | ListView IstHitokoto = (ListView)findViewById(R.id.LvHITOKOTO); |
   → → // 各ButtonにOnClickListenerをセット↓
            btnDelete.setOnClickListener(this): 4
            btnMainte Back.setOnClickListener(this); 4
           -// ListViewlこOnItemClickListenerをセット↓
            54
55
56
             this.setDBValuetoList(IstHitokoto);
57
58
        10
```

説明してきたように、この表示/再表示(onResume)のタイミングで、 DBからSELECT→Listviewへ格納実行を呼び出します。長くなると読みづらくなるので、1つのprivateなメソッドにまとめて、 「setDBValuetoList」と名前をつけ、ここでは呼び出すだけにしましょう。

呼び出すsetDBValuetoListメソッドを作る

```
*引数のListViewIこDBのデータをセット↓
* @param IstHitokoto 対象となるListView↓
private void setDBValuetoList(ListView IstHitokoto){↓
    SQLiteCursor cursor = null: △
   // クラスのフィールド変数がNULLなら、データベース空間オーブン\triangleleft if(sdb == null) {\triangleleft
          helper = new MvSQLiteOpenHelper(getApplicationContext()); △
    try{₄
        sdb = helper.getWritableDatabase();↓
    }catch(SQLiteException e){

        // 異常終了↓
Log.e("ERROR", e.toString());↓
    // MySQLiteOphenHelperにSELECT文を実行させて結果のカーソルを受け取る↓
    cursor = this.helper.selectHitokotoList(sdb); △
    // dblayout: ListViewにさらにレイアウトを指定するもの』
    int db_layout = android.R.layout.simple_list_item_activated_1; ↓ // from: カーソルからListviewに指定するカラムの値を指定するもの↓
   String[]from = {"phrase"};↓
// to: Listviewの中に指定したdb_layoutに配置する、各行のview部品のid↓
int[] to = new int[]{android.R.id.text/};↓
   // ListViewにセットするアダブターを生成↓
// カーソルをもとに、fromの列から、toのViewへ値のマッピングが行なわれる。↓
   SimpleCursorAdapter adapter = 4
      new SimpleCursorAdapter(this, db layout, cursor, from, to, 0);
    // アダプターを設定します』
    IstHitokoto.setAdapter(adapter): △
```

先ほど呼び出す形にした「setDBValuetoList」を作ります。 まずデータベースのオープン処理を書き込みます。

呼び出すsetDBValuetoListメソッドを作る

```
* 引数のListViewICDBのデータをセット』
* @param IstHitokoto 対象となるListView』
private void setDBValuetoList(ListView IstHitokoto){↓
    SQLiteCursor cursor = null: ⊿
    // クラスのフィールド変数がNULLなら、データベース空間オーブン↓ if(sdb == null) {↓
          helper = new MvSQLiteOpenHelper(getApplicationContext()); \( \tau \)
    try{⊿
        sdb = helper.getWritableDatabase();↓
    }catch(SQLiteException e){

        // 異常終了』
Log.e("ERROR", e.toString());』
    // MySQLiteOphenHelperにSELECT文を実行させて結果のカーソルを受け取る↓
    cursor = this.helper.selectHitokotoList(sdb); △
    // dblayout: ListViewにさらにレイアウトを指定するもの』
    int db_layout = android.R.layout.simple_list_item_activated_1; ↓ // from: カーソルからListviewに指定するカラムの値を指定するもの↓
    String[]from = {"phrase"};↓
// to: Listviewの中に指定したdb_layoutに配置する、各行のview部品のid↓
int[] to = new int[]{android.R.id.text/};↓
   // ListViewにセットするアダブターを生成↓
// カーソルをもとに、fromの列から、toのViewへ値のマッピングが行なわれる。↓
    SimpleCursorAdapter adapter = 4
      new SimpleCursorAdapter(this, db layout, cursor, from, to, 0);
    // アダプターを設定します↓
    IstHitokoto.setAdapter(adapter): △
```

次に、DBからレコードを指し示すカーソル(curosor)を取得、 Listviewへ設定する処理を書きます。

アダプターとは

```
// MySQLiteOphenHelperLSELECT文を実行させて結果のカーソルを受け取る↓
cursor = this.helper.selectHitokotoList(sdb);↓

// dblayout: ListViewLさらにレイアウトを指定するもの↓
int db_layout = android.R.layout.simple_list_item_activated_l;↓
// from: カーソルからListviewL指定するカラムの値を指定するもの↓
String[]from = {"phrase"};↓
// to: Listviewの中に指定したdb_layoutに配置する、各行のview部品のid↓
int[] to = new int[]{android.R.id.textl};↓

// ListViewLtoyトするアダブターを生成↓
// カーソルをもとに、fromの列から、toのViewへ値のマッピングが行なわれる。↓
SimpleCursorAdapter adapter =↓
new SimpleCursorAdapter(this,db_layout,cursor,from,to,0);↓

// アダブターを設定します↓
IstHitokoto.setAdapter(adapter);↓
```

先ほどの上図のようなソースコードの中で、「アダプター(Adapter)」といいうものを使用しています。アダプターとは、何でしょうか。

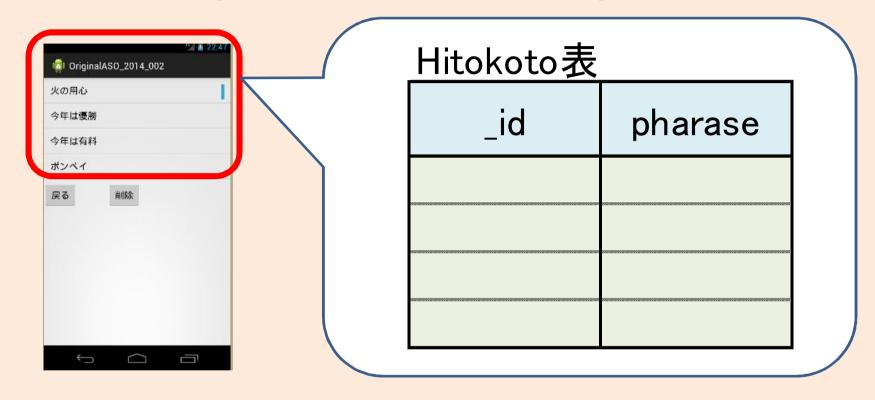
アダプターはデータの塊をリスト部品 に紐付ける



アダプターとは、データの塊と、リストなどの部品とを、 紐付けることができる、便利なクラスです



SimpleCursorAdapter



ここで使用したSimpleCursorAdapterは、中でも、データの塊を、 ループを繰り返さずに一度にごっそりリストにセットできる、便 利なアダプタです。



SimpleCursorAdapter の作り方

```
// ListViewにセットするアダブターを生成↓
// カーソルをもとに、fromの列から、toのViewへ値のマッピングが行なわれる。↓
SimpleCursorAdapter adapter =↓
new SimpleCursorAdapter(this,db_layout,cursor,from,to,0);↓
// アダプターを設定します↓
IstHitokoto.setAdapter(adapter);↓
```

public SimpleCursorAdapter (Context context, int layout, Cursor c, String[] from, int[] to, int flags)

SimpleCursorAdapterをnewするコンストラクタの第1引数 contextには、画面やアプリなどのContextを指定します。第2引数layoutはListviewに使用するレイアウトファイルのIDを指定します。第3引数cにはリストに表示するデータの塊のカーソルを指定します。4引数fromはカーソルで指定したデータの塊(テーブル)から、表示したいカラム名をString配列で指定します。第5引数toは第4引数fromで指定したカラムの値を表示するレイアウトファイル内のViewのIdをint配列で指定します。



登録された一言をリスト表示、完成



これで、登録したデータを一言表示画面で一 覧表示させることまで完成したはずです。実 行して確認してみてください。

次はdelete文



次は、いよいよ最後に残った、一覧からの選択、DELETE文実行に入っていきたいと思います。

githubにアップロードして提出

Androidプロジェクトをgithubに アップロード



v.1.0.0

どこでも再開できるように、できあがったところまで、まめにGithubにアップロードしておいてください。



内部DBを使おう【続編1:SELECT】





おしまい

by masatokg